

当事者を運営の参画者に育てるプロセス 子どもや地域を主役にする 事業・組織づくり

「子どもが主役!」「地域が主体的な担い手」であることをめざす団体は多いが、実態としては、大人が段取りして子どもは参加するだけだったり、ごく一部の住民が運営を担い、大多数は参加するだけ、というところがほとんどだろう。

しかし「提供者と受益者」という関係を固定することなく、「当事者も担い手の一員」として、運営に参画できる組織は、NPOの理想とする市民社会のモデルともいえる。

当事者が運営に参画するための、流れとポイントを確認しよう。



「お客さん」から支え手・担い手に

担い手が育たない理由?
担い手になる前に、まず支えてもらう
当事者を担い手にする利点と懸念点を確認する



実施するチカラを高めるために

1人2役当たり前!
準備と片付けを、育てる機会に



ふりかえり、申し送るチカラを高めるために

ふりかえりも、活動の一部
自分のためと、組織のために
ふりかえりを生かすために、申し送りを徹底する
【コラム】「改善したいことのリスト」は、年に1回、棚卸ししよう



決定し、説明するチカラを高めるために

価値や根拠が共有できているから、判断力が育つ
わかりやすく説明するために、明確で簡潔に!
・大きな全体像は、一部分×数量で
・しくみや構造は、流れ図や配置図を
ウォンツではなく、ニーズを確かめる
【コラム】子ども特有の懸念点に、どう取り組むか



「お客さん」から支え手・担い手に

子どものため、地域のための活動は、子どもや地域の住民を「お客さん」扱いするだけのものではあってはならない。NPOは、市民が地域や社会を民主的に運営するための手段であり、単なるサービス提供機関で

あってはならない。では、すでに動き続けている事業や組織の運営に、どうやって子どもや住民を巻き込むのか。

今回の特集では、「子ども」を主軸におきつつ、活動の対象となる人々(当事者)が、事業や組

織の運営に参画するための流れとポイントを確認する。同様の工夫は、地域の住民など、異なる種類の当事者にも、効果を発揮するだろう。

担い手が育たない理由？

「中長期的な方針づくりなどの重要な意思決定の際に、もっと積極的に意見を言ってほしい」、「現場から、団体の運営を担える人材を育てたい」など、現在のリーダーは、現場に参加する人々の中から次の世代のリーダーを育てるために、積極的に運営に参画してほしいと考えている。団体や活動の創設者には、自らがそうやって立ち

上げてきただけに、特にその気持ち強い。

しかし参加している人々の多くは、「立ち上げたい」「担いたい」から参加したのではなく、「すでに立ち上がっている」「担う人がいる」から参加したというのが、現実だろう。

常識のある人なら、意見を言えば、それなりに責任や役割を負わねばならないことはわかっ

ているから、責任や役割を負いたくない、または事情があって負うことができない人なら、意見は言わないでおこうと感じているはずだ。ましてや、いつも積極的に発言する現在のリーダーが、大きなリスクや責任・役割を負いながら、活動を拡大している様子を現場で見ているら、そのまま任せておこうと感じるほうが自然だろう。

担い手になる前に、まず支えてもらう

担い手になろうと思えない、もうひとつの大きな理由として、なろうという気持ちが少しはあるにしても、引き受けるだけの自信がないことが挙げられる。その原因は、「自分にもできる」と実感できる機会がなかったことだ。担い手になろうという気持ちが育っていない人に、いきなり追ったり促したりしても、忌避感を募らせるだけ

で、逆効果だ。

図表3に示したとおり、当事者が担い手として運営に参画している状態とは、活動の進め方や組織のあり方について、自発的・主体的に決定し、その決定結果を自分の言葉で伝え、きちんと実施して、ふりかえりや申し送りまで行って、次の決定に結びつけるというサイクルができてきていることだ。

しかし上述のとおり、実行力に自信がない人にとって、判断することは、さらに難しい。そこで、まずは日常の現場の準備や後片付けを手伝ってもらい、「お客さん」から支え手へと、着実に育てることから始めよう。そして、判断や交渉に徐々に巻き込みながら、機会をつくる担い手へと育てることが、時間はかかっても確率の高いプロセスだ。

当事者を担い手にする利点と懸念点を確認する

このように、当事者を担い手に育てるためには、かなりの時間も労力もかかる。それでも取り組んでいこうという気持ちを、団体として共有するためには、利点(メリット)と懸念点(リスク)を確認しておく必要がある。

図表4には、主な利点として、

主体性や独自性、多様性など、団体にとって重要なチカラとなる項目を、主な懸念点として、確立できるまでの間のペースダウンや「責任」が問われることへの対応、時間のなさを挙げた。

さらに、子どもを対象とする

場合の特有の問題として、子ども同士の関係や学年間の差、勉強への影響、コストの負担、保護者とのコミュニケーションといった点にも、配慮と対応が求められる。

日常の活動・事業そのものも、取り組みが始まってすぐに

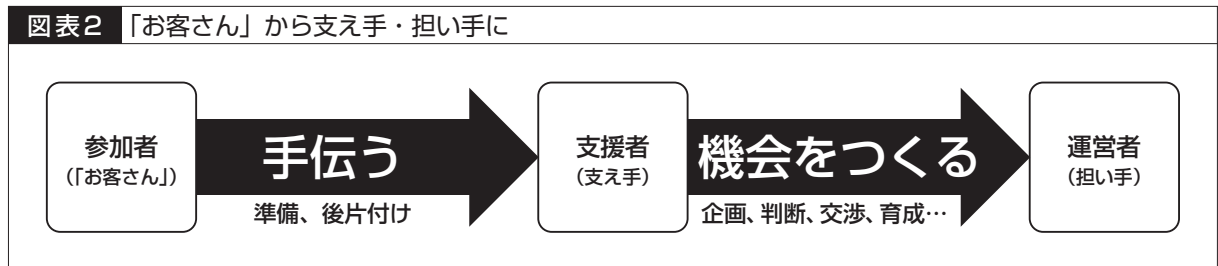
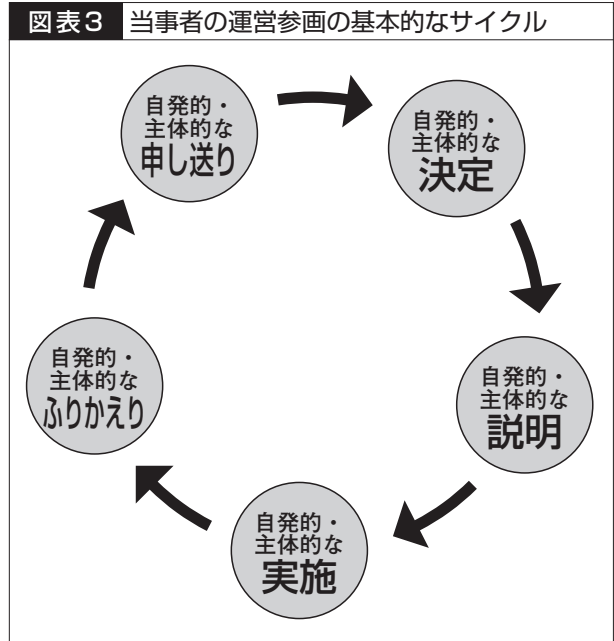
効果が現れるわけではなく、時間と労力をかけて続けているだけに、「さらに負荷をかけてまで、育成を行う必要があるのか？」という声は、内部から、特

に現場の最前線にいる、育てたい当事者自身から上がる可能性が高い。だからこそ、中長期的な観点から、団体自身と地域・社会のために、なぜ当事者

を担い手に育てねばならないのかを、具体的な根拠を挙げて説明できるよう準備しておくことが、現在のリーダーが取り組むべき最初の役割だ。

図表1 担い手が育たない主な理由？

- 「担いたい」と思っていない。
➡ そもそも「すでに立ち上がっている」「担う人がいる」から参加した。
- 現在のリーダーが積極的過ぎる。
➡ 他のメンバーの主体性の芽を摘んでしまっている。
➡ 「自分には、とてもできない」
- 引き受ける自信がない。
➡ 「自分にもできる」と実感できる機会がない。



図表4 当事者が運営参画することによるメリットと、懸念点

メリッ ト	懸念点
<input type="checkbox"/> 主体性が育つ <input type="checkbox"/> 独自性が発揮しやすくなる <input type="checkbox"/> 継続性が高まる <input type="checkbox"/> 多様性が豊かになる <input type="checkbox"/> 即応性が高まる <input type="checkbox"/> 育成基盤が豊かになる あなたの団体では？	<input type="checkbox"/> ペースダウン 「わかりやすさ」をどう高めるか？ 意思疎通を促すには？ 能力を向上するには？ <input type="checkbox"/> 責任 実行力を高めるには？ 判断力を高めるには？ 守秘義務を理解し、守らせるには？ <input type="checkbox"/> 忙しい！(時間不足) 子ども特有の問題として
	<input type="checkbox"/> 子ども同士の関係 いじめなどにつながらないか？ <input type="checkbox"/> 学年間の差 低学年をどう扱い、育てる？ <input type="checkbox"/> 勉強(成績)への影響 時間配分のバランス？ <input type="checkbox"/> コストの負担 交通費など <input type="checkbox"/> 保護者とのコミュニケーション